

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））

分担研究報告書

地域連携会議（地方会・循環器領域）モデル開発に関する研究

研究分担者 平田 健一

神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学分野 教授

研究要旨

研究目的: 循環器疾患のメンタルケアに対して、循環器科 精神科の地域連携モデルを作成する。

研究方法: メンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクト、地域連携モデルの一環として、平成 25 年 1 月、兵庫サイコカーディオロジー研究会を発足。兵庫県下 4 病院を中心として、循環器医、精神科医及びコメディカルが参加。循環器疾患に関する心理的側面の共有をすることから開始した。

結果: 平成 26 年度には 5 回の研究会を実施。既に策定した 3 つの柱（コーディネーター養成、連携ツールの作成、啓蒙・啓発）の実践を検討。研修によるコーディネーター養成及び循環器疾患のメンタルケアの啓蒙、さらに【心臓とこころの連携シート】を作成した。

まとめ: 地域連携会議モデル（循環器疾患）開発に際しての情報共有、地域連携構築を行った。今後、さらに具体的な地域連携の実現を目指す。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

水谷 和郎	神戸百年記念病院 内科 医長
民田 浩一	西宮渡辺心臓・血管センター 副院長
堂本 康治	神戸労災病院 第二総合内科 部長
大石 醒悟	兵庫県立姫路循環器病センター循環器科 医長
北井 豪	神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科 副医長
松石 邦隆	神戸市立医療センター中央市民病院精神科 医長
山根 光量	山根クリニック
竹原 歩	兵庫県立大学看護学部
庵地 雄太	神戸百年記念病院 心臓リハビリテーションセンター 心理療法士
安井 博規	国立循環器病研究センター 心臓血管内科
見野 耕一	兵庫県立光風病院 副院長
伊藤 弘人	国立精神・神経医療センター 精神保健研究所 社会精神保健研究部 部長

A. 研究目的

平成 24 年より国立高度専門医療研究センター共同研究プロジェクト「身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクト」が開始。本プロジェクトを遂行するにあたり、医療現場での身体科チームと精神科との地域連携会議は必須である。さらに、各身体科それぞれにおけるメンタルケアに関する地域連携構築は、その基礎となるものである。本プロジェクトに先行して、兵庫県地域は従前より循環器疾患領域へのメンタルケア導入が盛んな地域である。本研究では、兵庫県地域における循環器科 - 循環器科及び循環器科 - 精神科の連携構

築を試行、ナショナルプロジェクトとしての地域連携モデル開発を検討する。

B. 研究方法

循環器疾患のメンタルケアについては、注目されつつある。しかしながら、未だに医療従事者でさえ理解不十分な面も多く見られる。うつとの関連性など、病態に関する様々な報告はみられるも、地域連携という形でのシステム作りについては発展途上である。今回兵庫県地域において、既に循環器疾患のメンタルケアを取り入れている4病院（神戸百年記念病院、西宮渡辺心臓・血管センター、神戸労災病院、姫路循環器病センター）を選択。これら病院を基軸とし、国立精神・神経医療センター及び国立循環器病研究センターを加えて、平成25年1月28日、兵庫サイコカーディオロジー研究会を発足した。精神科からの参画は、サイコオンコロジーの先覚である神戸市立医療センター西市民病院及びへ依頼。その後神戸市立医療センター中央市民病院、山根クリニックなどの参画を経た。

研究会では、循環器疾患に対するメンタルケアに関する現状、課題の把握から開始。ワークショップ形式などで循環器疾患とメンタルケアに関する様々な意見を集約した。

（倫理面への配慮）

本研究では、症例検討を行う際に患者情報等個人が特定されることの無い様、倫理的な配慮を行った。

C. 研究結果

昨年度に引き続き、各研究会の概要を述べる。

<第6回研究会（平成26年4月）>

基調講演として、総論「うつ、せん妄、認知症を中元幸治先生（神戸市立医療センター西市民病院 精神・神経科）に依頼。兵庫県立姫路循環器病センターにおける術後症例の検証を行

った。

<第7回研究会（同年6月）>

緩和ケアにおけるサイコオンコロジーは、現在PEACEプロジェクトとして活動中である。メンタルケアの位置づけから、その理念を共有するため、PEACEプロジェクトリーダーである木澤義之先生（神戸大学大学院医学研究科 先端緩和医療学分野 特命教授）を講師に招き、「医療者・患者間のコミュニケーション（意思決定支援を含めて）」で講演。症例検討として西宮渡辺心臓・血管センターから、各職種別のプレゼンテーションを行い検討した。

<第8回研究会（同年6月）>

患者とのコミュニケーションをいかに取るかはメンタルケアには欠かせないことである。

「アセスメント」をテーマに、石原俊一先生（文教大学 人間科学部 心理学科 教授）を基調講演として、神戸労災病院症例に対する検証を行った。

<第9回研究会（同年12月）>

病診連携などの地域連携は当然重要であるが、まずは院内の連携を構築することが不可欠である。循環器科と精神科のスムーズな連携を構築されている東京女子医科大学病院から、鈴木豪先生、西村勝治先生各科からみた院内連携の構築について講義。ワークショップでは、神戸百年記念病院より提示の症例を金魚鉢方式のワークショップとして検証した。

<第10回研究会（27年2月7日）>

本研究の骨子でもある地域連携について、基調講演を開催。関西医科大学を中心とした循環器疾患に関するグローバルな地域連携について、

関西医科大学健康科学センター教授、木村穰先生による講演。神戸市立医療センター中央市民病院の院内連携を伴う症例での検討会を行った。

<連携ツール>

本研究の骨子でもある地域連携に関して、【心臓とこころの連携シート】(図1)を作成した。ナショナルプロジェクト連携ツール、患者手帳をベースに患者基本情報、抑うつや怒り尺度などの心理テスト結果、そして[こころの状態]を記載できるように作成。使用法として、循環器科受診中の患者に対して、コーディネーターが本シートを用いてメンタルチェックを行う。チェックの際、コーディネーターからのコメントを記載。メンタルケアの上で問題があり、精神科受診が必要なケースについては、コーディネーターが連携ツールあるいは循環器医療機関に直接連絡を行う。その際、ただ連絡するだけでなく、精神科の無い医療機関、開業医に対して、最寄りの精神科への具体的な連携まで繋ぐのが本コーディネーターの役割と考える。

D. 考察

本研究の指針は、「コーディネーター養成」、「連携ツールの作成」、「啓蒙・啓発」三項目である。これら三項目を本研究の「3つの柱」と位置づけ、今後の課題とした。

《コーディネーターの必要性》

第1の柱は『コーディネーターの養成』である。

本年度は前年同様、各研究会におけるメンタルケアに対する知識の獲得を基本とした。各研究会における症例検討をコーディネーター研鑽の場とした。

《連携ツールの作成》

第2の柱は『連携ツールの作成』である。この『連携』とは「診療科連携」、「病病連携」、「病診連携」、「地域連携」の4つの要素から構成されている。

ここでは、「診療科連携」は循環器内科、心臓血管外科、心療内科、精神科などの診療科の連携。「病病連携」は中規模一般病院と専門科としての循環器科あるいは精神科を有する地域総合中核病院との連携。「病診連携」は循環器科あるいは精神科を有する総合病院と地域のクリニック等かかりつけ医との連携。「地域連携」は役所や保健所、福祉施設など地域における社会資源との狭義の連携を称する。

それぞれを相互・多角的に繋ぐのが『連携ツール』である。本年度はこのツールとして【心臓とこころの連携シート】を作成した。このシートは他の分担研究で作成された「患者手帳」と主旨を同じにするものである。本研究では、この【心臓とこころの連携シート】を循環器疾患と精神疾患の両疾患に対応した形を検討・作成し、前述のコーディネーターが中心となって運用することを目指す。

《啓蒙・啓発》

第3の柱は『啓蒙・啓発』である。26年11月、第70回日本循環器心身医学会総会において、日本循環器心身医学会と本ナショナルプロジェクトとのジョイントシンポジウムが企画された。

このジョイントシンポジウムは昨年引き続き第2回となった。循環器疾患に対するメンタルケアの必要性の重要な啓蒙・啓発の良い機会となり、さらには本ナショナルプロジェクトの推進に寄与するものである。

このような学術集会や論文投稿等を積極的に活用し、循環器疾患に対するより専門的なメン

タルケアの必要性だけでなく、具体的対応策としての「地域連携モデル」を同時に啓蒙・啓発してゆくことが重要である。

今後さらに、様々な機会を通じて循環器疾患領域のメンタルケアについて『啓蒙・啓発』を行ってゆくことが、本研究の3つ目の柱である。

E. 結論

平成26年度は循環器疾患に対する地域連携会議モデル開発に際して、研修及び連携ツールとして【心臓とこころの連携シート】の作成を行った。今後、より具体的な地域連携の実践を目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

・庵地雄太 水谷和郎他 多職種連携協働(IPW)によるメンタルケアの実践 第20回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2014年7月20日 京都：みやこメッセ

・安井博規 水谷和郎 平田健一他 メンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクトにおける兵庫サイコカーディオロジー研究会の意義 第20回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2014年7月20日 京都：みやこメッセ

・水谷和郎 伊藤弘人 平田健一他 連携機関としての兵庫サイコカーディオロジー研究会の役割 第65回日本心臓病学会学術集会(招待) 2014年9月28日 宮城 仙台市民会館

・庵地雄太 水谷和郎 安斉俊久他 心不全のメンタルヘルスケア-心理士の立場から- 第18回日本心不全学会学術集会(招待) 2014年10

月11日 大阪 大阪国際会議場

・庵地雄太 水谷和郎他 循環器患者への高質なメンタルヘルスケア：兵庫サイコカーディオロジー研究会の試み 第27回日本総合病院精神医学会総会 2014年11月28日 茨城 つくば国際会議場

・安井博規 伊藤弘人他 兵庫サイコカーディオロジー研究会の進展 2014年11月23日 日本循環器心身医学会学術集会 北海道 北海道大学

・水谷和郎 平田健一他 国立精神・神経医療研究センター/国立循環器病センタージョイントシンポジウム指定演題 2014年11月23日 日本循環器心身医学会学術集会(招待) 北海道 北海道大学

H 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

